

環境大臣 西村 明宏 殿

令和5年4月5日  
有限会社 藤岡保険コンサルタント  
代表取締役社長 藤岡 徹也

## 1 脱炭素社会に向けた「グリーン（GX）×デジタル（DX）」社会の実現を推進します。

### 🌿 エコアクション21のガイドラインに則った環境経営の実践！

CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた5つの項目（電力・一般廃棄物・ガソリン・水・紙）における数値目標を設定し、計画的かつ継続的な実践と改善に取り組みます。結果、CO<sub>2</sub>排出量を2030年までに2020年度比で49%削減、2040年まで80%削減、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指します。

### 🌿 徹底したデジタル革新（DX）を推進し、あらゆる完全ペーパレス化を実現！

保険のお申込手続きの際に、デジタル手続き（ペーパレス手続き/オンライン手続き/電子署名手続き等）を積極的に推進し、同時にお客様へ「WEB約款・WEB証券・WEB更新案内」をご選択頂くことで（マイページアプリで閲覧）、紙資源使用量の大幅な削減に貢献し、業界をリードするDX推進企業として、2024年までに、全てのお申込手続きならびに保険金請求手続き時における完全ペーパレス化の実現を目指します。

### 🌿 通信機能付きドライブレコーダーでお客様の「安全運転」と「ECO DRIVE」をサポート！

取扱保険会社（東京海上日動）が提供する通信機能付きオリジナルドライブレコーダーをより多くのお客様にご利用頂くことで、お車の「急発進・急停止」「片寄警告」「前方車両接近警告」「居眠り警告」等をリアルタイムで注意喚起することにより、お客様への「安全運転」とふわりアクセル・ブレーキによる「ECO DRIVE」（10%程度燃費向上）サポートに貢献し、交通事故減少と燃料消費量削減で、国が普及・推進する「エコドライブ10のすすめ」につなげます。

## 2 防災・減災と再エネを推進し「レジリエンスでエコなまちづくり」に貢献します。

### 🌿 お客様と共に災害から命を守る森づくりで地球環境保全に貢献！

お客様と共にできる防災・減災・地球環境保全を実現するため、お客様から「WEB証券・WEB更新案内」をご選択頂いたご契約1件につき100円を「公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト」への寄附や植樹活動などの社会貢献活動を通じて、お客様と共に取り組む「災害から命を守る森づくり」と「紙資源使用量の削減」ならびに防災・減災と自然・生物多様性保全に寄与することを目指し、包括的かつレジリエンスでエコなまちづくりに貢献します。

### 🌿 再生可能エネルギー（自家消費型ソーラーカーポート）の導入！

「再エネ100宣言 RE Action」への参加企業として、グリーン電力の購入と合わせ、2024年までに自家消費型ソーラーカーポート設備を導入し、自社で使用する電力を全て再生可能エネルギー100%で賄うことを目指します。また、災害等による停電時の際には、自家消費型太陽光発電を非常用電力として活用し、事業活動における災害レジリエンスの強化・維持を図ります。その他、2035年までに全ての社有車を電気自動車（EV・PHEV）に順次切り替え、環境にやさしい再エネ100%自家発電による「ゼロカーボン・ドライブ（再エネ100%+EV車）」を実現します。

## 3 環境経営を実践するための体制整備と社員教育を実施します。

### 🌿 環境経営システムの構築と計画的な社員教育の実施！

事業活動により発生するCO<sub>2</sub>排出量を四半期毎に集計し、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けたPDCAサイクルを計画的に実施することで、継続的な実践と改善に努めます。また、社員への環境教育の一環として、eco検定の取得推奨や費用援助、環境関連セミナーへの参加促進をはじめ、社会貢献活動（地域の清掃活動や植樹活動などのボランティア等）に自主的に参加しやすい職場環境を整備し、その他地元企業等の社外に向けたSDGs取組事例の講演活動や、小学生を対象とした防災授業と生物多様性への理解向上につながる環境学習の実施など、会社一体で環境経営に対する意識の浸透と実践に取り組みます。

## 4 SDGs 達成に向けた取り組みの「輪」を広げていきます。

### 🌿 SDGs 達成に向けた取り組みとステークホルダーへの情報発信を実践！

環境省が提唱する「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」ならびに「COOL CHOICE」の取り組みに賛同し、この運動をもっと大きなものにするためにも、全てのステークホルダーに向けての積極的な情報発信（環境経営レポート・ホームページ・公式SNS・会社PV動画等）を通じて、みらい世代が「安心・安全」に暮らせる社会の実現につながる「橋渡し役」として、SDGs達成に向けた取り組みへの「輪」を広げていきます。